

# 恐竜に 会いたい

岡山理科大学教授・石垣忍



モンゴルで恐竜化石を発掘している岡山理科大学の石垣忍教授(古生物学)らによるシンポジウムが12日、岡山市北区理大町の同大で開かれ、世界最大級の足跡化石を見つけた成果などが報告されました。

同大はゴビ砂漠を舞台に、モンゴル古生物学地質学研究所と共同で調査を行っています。

リーダーを務める石垣教授は、昨年9月、約7000万〜9000万年前の白亜紀後期の地層から、長さ1メートルを超える恐竜の足跡化石を見つけたことを紹介。形状などから4本足で歩く大型植物食恐竜・竜脚類の一種「ティタノサウルス類」と分析しました。

見つかった化石は爪痕や形状が立体的に残っているのが特徴で、石垣教授は

## 巨大足跡の次は本体を

発掘成果について話す石垣教授



番外編 モンゴルでの発掘成果



足跡化石の発掘現場をスライドで紹介

「今年夏の調査ではぜひ恐竜本体の化石を見つけ、さまざまな謎を解き明かしていきたい」と意気込みを語りました。

「泥の中に恐竜の足が深くめり込み、そこに砂がたまって固まった後、地層が上に重なり風化に耐えたのでしょう」と説明しました。

シンポジウムは市民ら約150人が聴講。会場内には恐竜化石の实物大レプリカも展示され、足跡模型の横に寝転び大きさを比べる姿も多く見られました。

(井上光悦)



1メートルを超える世界最大級の足跡化石のレプリカ